

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271202978		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	グループホームガーデンコート矢切(2F)		
所在地	千葉県松戸市下矢切99-10		
自己評価作成日	令和6年2月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座6-13-9 GIRAC GINZA8階bizcube		
訪問調査日	令和6年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>お客様のニーズ、ご家族様のニーズを丁寧に伺い、スタッフの「ちから」のみではなく、地域の「ちから」を活用し、その人の「思い」を大切に出来る「暮らし」を実現出来るよう、「共生」(共に生きる)の心を大切に、ご本人様と足並みを揃えて歩いて行く。そんなホームを目指し、日々スタッフ全員でお手伝いをしていきたいと思っております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>新型コロナウイルス5類移行を受けて、利用者の活動の幅を広げています。今年度は社会福祉協議会主催の子どもまつりや地域の盆踊りに利用者と一緒に参加をしたり、近隣のファミリレストランへの外食、事業所内での季節の行事、さらに社内ちぎり絵コンテストに準優勝し、その副賞として事業所内に移動動物園を呼ぶことができました。多くの動物と直接触れ合うことができ利用者にとっても貴重な体験につながりました。また地域との連携にも力を入れており、令和5年度は、地域包括支援センターと連携して利用者が体操教室に通うことができるようになるなど、連携強化による具体的な成果も出ています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念「サービス方針・サービス宣言」を元に従業員にサービスの提供が出来る様に会議や研修時に唱和している。	会社が作成した「サービス指針」を毎朝少しずつ唱和をして、食事や排せつ、入浴、好意、行事やレク活動時に注意すべきことなどを職員間で共有しています。今年度はホーム内でのイベントや戸外での活動にも力を入れていく事を目標にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の公園での「盆踊り」や「矢切こどもまつり」「矢切いきいき体操」への参加など、地域との交流を図っている。今年度から相談員の受け入れを再開している。	社会福祉協議会主催の子どもまつりや地域の盆踊りにも参加をして地域との交流を深めています。近隣の他事業所との交流や法人内のグループホームとの交流、また今年度からは介護相談員の受け入れも再開しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に、民生委員、ご家族、他関係諸機関の方々に参加して頂き、生活のご様子や事例などを説明し、ご意見を頂いている。お問合せ、ご見学の際に認知症ケアの方法についてお話をさせていただく事はあった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での取り組み状況の話し合いをきっかけに、地域包括支援センターからのご紹介で「矢切いきいきライフ応援クラブ」へ参加させていただくことになった。	会議には利用者家族、利用者代表者、民生委員、近隣グループホームの管理者、地域包括支援センターの参加を受けて2ヶ月毎実施しています。年に一度市の担当課の職員も参加しています。会議で出た情報を生かして利用者が地域の体操教室に参加できるようになるなど有意義な会議になっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターに運営推進会議に参加して頂いている。また困難ケースの相談などを主として、必要に応じて市の担当者と連携を取り、サービスの質の向上に取り組んでいる。	運営上相談事が生じた際には市の担当課へ連絡を入れて必要な指示を仰いでいます。今年度8月には運営指導で助言を頂くほか、年に一度運営推進会議に担当者の参加もあり取り組みなどを共有しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、全職員に研修を実施し、身体拘束のないケアを徹底している。 また、新規雇用スタッフについては、入職時に研修を行っている。	身体拘束の発生状況や離床センサーなどが適切に使用できているかなどを定期的に確認して2ヶ月毎の運営推進会議で報告しています。また、ホーム内での年2回身体拘束廃止研修を実施し、全職員の意識を高めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や虐待の芽チェックリストの実施を行い事業所内で共有している。お互いに注意喚起が出来る環境づくりに努めている。		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	保佐人がお客様のサポートをされていることもあり、制度については知っている。今年度は必要性を関係者と話し合う機会は作れなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用開始時、または利用途中の変更時など、必要となる場面で個別に説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケート、または運営推進会議等でご意見を頂き事業所の運営に反映させて頂いている。	家族からの意向や要望については面会時やケアプランの説明の際に確認し、要望等が出た場合には迅速に対応しています。利用者からの要望等は日常会話から収集し、日々の生活の中で反映できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ユニット会議を開催し、意見や提案を聞く機会を設けている。随時面談や従業員働き心地アンケートを実施し、意見や提案をしてもらう環境づくりをしている。	職員からの意見や要望については、管理者との定期面談のほか、職員個々の状況に合わせて面談をして意見や要望のほか不安に感じていることなどを確認しています。また会社の従業員働き心地アンケートを年に一度実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入して、職員個々の評価を行っている。また6か月に1回の定期面談を実施し、意見や提案をもらう環境づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者やケアマネなどの役職別研修の受講を推進。また、オンデマンド研修も導入し、1年間の研修計画を立て、社内研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣グループホームの運営推進会議の参加、松戸市、GH協議会等共催の介護フェアの参加を通じて、同業者との交流する機会を作っている。		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他ご入居者様との間に入り、コミュニケーションの橋渡しを行うなど、人間関係作りのために積極的に関与するように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク時に聞き取りを行い、ご家族との要望を吸い上げプランに活用。また、ご入居後も定期的にご本人の様子を写真(画像)などを交えお伝えするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人様の要望や不安なことをお聞きし、適切なサービスが受けられるよう提案・対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とお客様が、一緒に身の回りの事や日常生活の活動を行うようにしている。身近な存在、顔見知りの存在として関係づくりに勤めている。誕生日は、皆で祝っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態変化がある場合はもちろん、普段の様子も随時報告している。定期的に郵送している写真に活動時個々の様子を添え郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前連絡にて友人、家族との面会の実施。お電話で会話が出来るように支援している。感染症、体調不良の方がいる時には面会は控えていただいている。	馴染みの人や場所との関係性が継続できるように、友人の来訪を可能とするほか、読みなれた新聞を入居後も購読できるよう配慮したり、家族との外出を許容して馴染みの場所へ出かけることも可能としています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がお客様と関わりを持ち、その中でお客様の関係を把握し仲の良いお客様が関われる環境づくりを意識している。職員が介入することで良い関わり合いをもてるようにしている。		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後でも、気軽にご連絡をいただける、相談していただけるような関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望をお聞きして、ケアプランに反映している。困難な場合にはこれまでの生活歴やご本人のご趣味をご家族様よりお聞きし、意向を把握するよう努めている。	利用者の思いや意向については日常会話からの収集のほか、ケアプランの作成および更新時に実施するアセスメントにおいて確認しています。抽出した意見や要望、課題等はケアプランに反映し日々の支援に反映できるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学时、初回面接時に本人や家族から情報収集を行い、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の会話や初回面談時にご家族様への聞き取りを行う。また日々の様子を観察し、把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との会話や家族、関係者との話し合いを行い、意見やアイデアを頂いている。話し合いの内容を汲み取り、現状に即した計画を作成している。	アセスメントで抽出した情報、利用者本人、家族、職員の意見を担当者会議で話し合い、総合的な意見を踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランの進捗については毎月モニタリングで確認し、6ヶ月毎ケアプランを更新しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録と職員の情報を元に話し合いを行い、お客様の計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族より要望や状況が変化した場合に相談をしながらサービスを決め、柔軟に取り組んでいる。		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて、活動できる地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望をお聞きしている。連携医療機関を希望された場合は、往診と夜間急変時の対応も含め説明を行っている。本人、家族の要望を医師へ繋げるなどしている。	ホーム提携先医療機関とは定期往診を通して連携を図ることができています。利用者の緊急時には迅速な対応できるように24時間連絡が取れる体制としています。また入居前のかかりつけ医を継続することも可能としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師と連携を図り、随時相談や指示を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人のご家族と共に医療機関との情報交換に努めている。面会が行える場合であれば面会し、情報交換・相談をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携機関と連携を図る中で主治医が終末期と判断した場合は、家族、主治医と相談をしながら今後の対応について相談し、方針を決めている。	重度化した場合や終末期の対応についてはホームでできること、できないことを利用契約の際に説明しています。重度化によりホームでの生活が難しくなった際には、今後の方針を家族も交えて検討し、お看取りの際には主治医とも連携して対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い、有事の際にはスタッフが対応できるように研修を行っている。近隣住民との協力体制については希薄な状態であり、今後の課題である。	今年度9月に2回に分けて火災を想定した避難、消火訓練を実施しており、3月にもう一度予定しています。備蓄品についてもホーム内に保管しています。策定が義務付けられた事業継続計画(BCP)も災害時と感染症拡大に備えた計画を策定しています。	作成を終えた事業継続計画(BCP)について、実際にBCPを発動させた訓練などを通して職員の理解や意識をより深めていけるとよいと思います。

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を開催し、職員一人一人が意識して言葉かけやプライバシーに配慮したケアを実施している。	年間の研修計画に接遇マナーやコンプライアンス研修を取り入れて職員の意識を高めています。日ごろから職員間で注意し合う環境を築くほか、定期的に「虐待の芽チェックリスト」を使用して言動や行動を振り返る機会も設けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを密にとり、その中で希望や要望を聞き出せるよう声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、食事の時間や部屋で休む時間など柔軟に対応している。頻度は少ないが希望により買い物に出掛ける機会も作っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様に衣類を選んでいただき、好きな洋服が着用ように提案を行っている。また、意思疎通が困難な場合は声をかけて、職員が選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様個々の力に応じお手伝いに参加して頂いている。また、メニューの変更を行い、食事を楽しみにして頂いている。	食事の準備や後片付けの場面ではできる方には参加を促して職員と一緒に準備等を進めていけるよう取り組んでいます。食材業者のイベント食なども活用して食事の楽しみにつなげています。食事の形態も利用者の嚥下状態に合わせて対応しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録に残して、少ない方には定時以外でも水分補給の促しを行っている。食事メニューも食材業者の栄養士が作成し、バランスの取れた食事のメニューが提供されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。お客様の身体状況により、訪問歯科よりアドバイスをいただき、口腔ケアを行っている。口腔体操、嚥下体操の実践。必要に応じ訪問歯科の治療や口腔ケアの指導を行っている。		

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、必要な方にはトイレ誘導を行い、極カトイレでの排泄を支援している。	排泄については定時の声かけや誘導により、トイレで排泄できるように支援しています。定時に声をかけることができ、排泄の失敗などを防ぐことができます。排泄状況はタブレット端末から専用の介護ソフトへ入力しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす機会を作るとともに水分の提供など便秘にならないような働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日を決めて入浴を行っているが、体調の状態や気分に合わせて、曜日を変更したり時間をずらす等の対応をしている。	入浴については週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助について事故が起きないように努めています。入浴中はマンツーマンでの対応のため利用者とのコミュニケーションを深める時間につなげています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様一人一人の生活習慣に配慮し、温度や明るさなどを調節している。また1時間に1回の巡視をおこない、安心して眠れるよう支援している。なかなか眠れない時は、温かい飲み物を提供したり、職員と談話するなどし支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時、往診医より薬の目的、変更と共に副作用の症状を聞く事が出来、変化の確認に努めている。薬剤師からも変更、用法、用量、副作用についての説明を受けている。職員にも情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き・ごみ捨てなどの役割や好きなものを行っていただくなどの気分転換を取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公園での「盆踊り」や「矢切こどもまつり」「矢切いきいき体操」への参加、近隣のレストランにおやつを食べに出掛けている。	新型コロナウイルス5類移行を受けて外出や地域行事への参加なども再開させています。今年度は地域の子どもまつりに参加をしたり、近隣のファミリーレストランへの外食、公園までの散策等戸外に出かけられる機会を増やして利用者の生活の幅を広げています。	

グループホームガーデンコート矢切(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを家族からお預かりしている。本人の要望や必要に応じて家族同意のもと、買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務所にて自由に使用して頂いている。手紙に関しては、送る支援をおこなったり、届いた手紙をご本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、常に清潔を保ち整理整頓を行っている。また、季節の飾り物を飾り、季節を感じやすくしている。装飾も色を選び作成し居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。	季節に合わせた装飾品を掲示するなど季節感が感じられるように各ユニットで工夫しています。日々の掃除の徹底や感染対策として手すりや床、リビングのテーブルなどもこまめに消毒するほか換気を徹底するなど基本的な対策を継続しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったお客様同士を同席にし、話が弾む工夫や様子により席替えを行っている。また、ソファを設置し一人になれる様に空間づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋への持ち込みは、なじみのある家具や日常使用する茶碗、箸等持参していただくようお願いし、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室の掃除も定期的に行い清潔保持に努めるほか、居室内のレイアウトについても利用者、家族の意向を大切にしています。馴染み品の持ち込みを可能として居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様一人一人の出来ることを把握し、ご本人の出来ることに関しては声かけをし、スタッフ見守りのもと、安全に配慮しながら行なって頂いている。		